

# ◇ 平成5年度第二回「若手技術者セミナー」開催報告 ◇

研修委員会

## 1. 5年度第二回セミナーの内容

平成5年度第二回「若手技術者セミナー」は平成6年1月13～14日、かまくらで有名な秋田県横手市の駅前温泉「ゆうゆうプラザ」において開催された。今回で通算8回目を数えるに至っています。今回のプログラムは下記に示す内容で、講演としては秋田大学鉱山学部土木環境工学科教授 清水 浩志郎先生の「高速交通体系全般について」という演題でした。

## プ ロ グ ラ ム

第一日目（1月13日木）

受け付け 12：30より

総合司会 研修委員会幹事  
山谷 和彦

(1) 挨拶

研修委員会委員長 和島 実  
奥山ボーリング社長 奥山 和彦

(2) 講演

タイトル「高速交通体系全般について」

秋田大学鉱山学部 教授 清水浩志郎

(3) 会議室にてパネラーの紹介、自己紹介及び「報告書の書き方」タイジエスト版

講師 副幹事 田上 裕 基礎地盤コンサルタンツ㈱仙台支社  
比留間誠之 応用地質㈱東北支社  
中谷 仁 ㈱日さく仙台支店

(4) 懇親会

第二日目（1月14日金）

総合司会 研修委員会幹事

山谷 和彦 梶谷エンジニア㈱東北支店

(1) パネルディスカッション

司会	研修委員会副委員長	吉田 公	日本地下水開発㈱
	パネラー	佐々木矢一郎	復建技術コンサルタント㈱
		安部 五郎	応用地質㈱東北支社
		比留間誠之	応用地質㈱東北支社
		大高 一男	奥山ボーリング㈱

研修委員会パネラー

副幹事 田上 裕 基礎地盤コンサルタント㈱仙台支社

研修委員

山口 弘	明治コンサルタント㈱仙台支店
中村 光作	ダイヤコンサルタント㈱仙台支店
中谷 仁	㈱日さく仙台支店
樽石 博行	㈱新東京ボーリング

テーマ

- ・原位置試験
- ・現場管理
- ・報告書、土質試験について

(2) セミナーに対するアンケート

(3) 閉会のことば 研修委員会委員長 和島 実

## 2. 第一日目

### 講演

清水先生の講演は社会資本整備の諸外国の充実ぶりを例にして道路、下水道の整備が充実していない日本の貧困さを述べられた。高速道路などは暫定2車線で建設して後から4車線にするというような建設は建設費がかかりすぎるため最初から4車線で建設すべきと言うような例をあげた。近年環境に対する配慮が重点とされ将来の高齢化社会を見据えた環境と人に優しい交通開発（人と文明に対して優しい道路を作る）が行われはじめているとし、秋田県鬼首道路は東北地建が初めて取り組んだ道路として紹介された。（小動物が側溝に落ちてでも上がれるような勾配の側溝、けもの道を確保するなど）国際化、情報化、高齢化及び都市化を考えた整備が必要であるという意見であった。

参考に講演資料の一部である図と表を紹介しておきます。

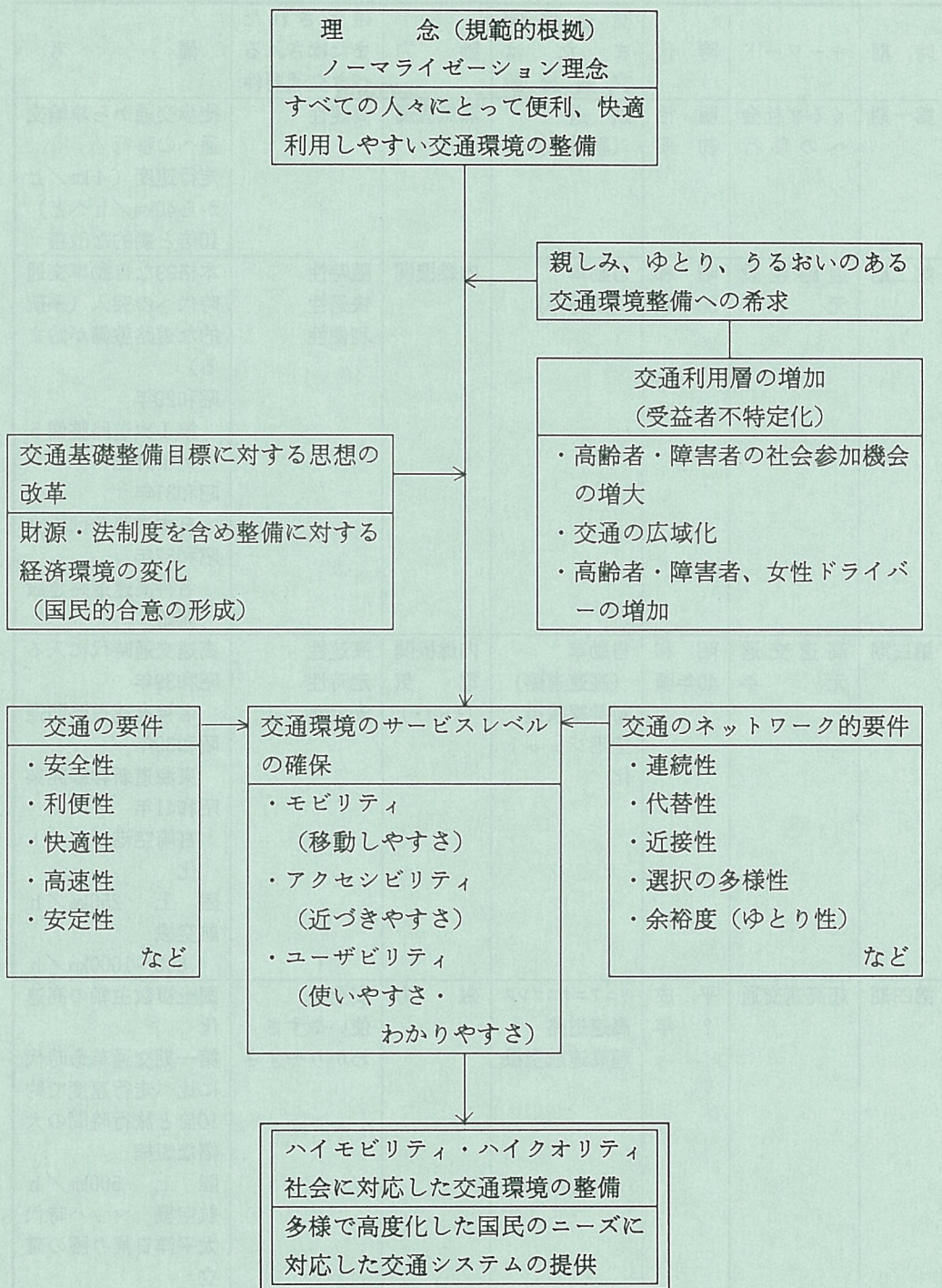


図-2.1 交通整備理念の概略図

表-2.1 わが国における交通革命

時 期	キーワード	時 代	交 通 機 関 ま た は 交 通 施 設	動 力	確 保 さ れ た ま た は さ れ る べ き 交 通 要 件	備 考
第一期	くるま社会 への移行	明 治 初 頭	鉄 道 (軌道系)	蒸気機関	高速性	徒歩交通から車輪交通への移行 走行速度(4km/hから40km/hへと) 10倍と劇的な改善
第二期	道路建設 元年	昭 和 30年頃	自動車 (道路系)	内燃機関	随時性 快適性 利便性	本格的な自動車交通時代への突入(系統的な道路整備が始まる) 昭和29年 第1次道路整備5ヶ年計画 昭和31年 日本道路公団設立 昭和32年 名神高速道路建設開始
第三期	高速交通 元年	昭 和 40年頃	自動車 (高速道路) 新幹線鉄道 空港ジェット 化	内燃機関 電 気 (モーター)	高速性 定時性 安定性	高速交通時代に入る 昭和39年 名神高速道路開通 昭和39年 東海道新幹線開業 昭和41年 宮崎空港ジェット 化 陸 上 250km/h 航空機 800~1000km/h
第四期	超高速交通	平 成 ? 年	リニアエクスプレス 高速道路 超高速航空機	磁 力	安全性 使いやすさ わかりやすさ	国土複数主軸の高速化 第一期交通革命時代に比べ走行速度で約10倍と旅行時間の大幅な短縮 陸 上 500km/h 航空機 マッハ時代 太平洋日帰り圏の確立
交通施設整備に対する思想改革		整備目標に対する根本的 な意識の改革		ノーマライゼーション理念の確立 (機会均等理念の定着)		